

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿  
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予報第10号(1月)について

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

**ミナミキイロアザミウマの防除を徹底しましょう！！**

ナスでミナミキイロアザミウマが多発しています。  
気温が上昇する3月以降に密度が急激に増加する恐れがありますので、生息密度が低い厳寒期の防除を徹底しましょう

また、本種はキュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫です。このウイルスはアザミウマ類が低密度でも伝染するので、早期発見に努め防除を徹底しましょう。



ナスの被害果

ミナミキイロアザミウマ

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

| 作物名   | 病虫害名                  | 発生量<br>(現況) | 発生量<br>(予想) |            |
|-------|-----------------------|-------------|-------------|------------|
|       |                       | 平年比         | 平年比         | 前年比        |
| 冬春イチゴ | うどんこ病<br>ハダニ類         | 並<br>やや少    | 並<br>やや少    | やや多<br>やや少 |
| 冬春ナス  | すすかび病                 | やや少         | やや少         | やや少        |
| 冬春トマト | 葉かび病                  | やや少         | やや少         | やや少        |
| 野菜共通  | ミナミキイロアザミウマ<br>コナジラミ類 | やや多<br>並    | やや多<br>並    | やや多<br>並   |

<特に注意を要する事項>

1 週目前半は気温が高く、1 週目後半から2 週目にかけては気温がかなり低くなる見込みで、変動が大きいでしょう。

<予想される向こう1か月の天候>

天気は、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は、平年並または低いでしょう。

週別の気温は、1 週目は平年並、2 週目は低く、3～4 週目は高いでしょう。

要素別確率 (%)

| 要素   | (低い)<br>(少ない) | 平年並 | (高い)<br>(多い) |
|------|---------------|-----|--------------|
| 気温   | 40            | 40  | 20           |
| 降水量  | 30            | 40  | 30           |
| 日照時間 | 30            | 40  | 30           |

(福岡管区気象台 平成21年12月11日発表抜粋)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の( )書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【野菜】

1 イチゴうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 12月3 半月調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0.7% (平年 0.8%、前年 0.2%)

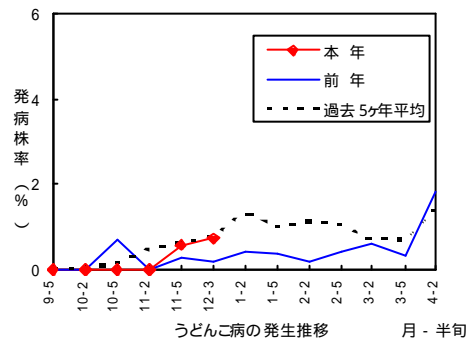
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロテーション散布する。



2 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 12月3 半月調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

寄生株率 1.8% (平年 8.8%、前年 8.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

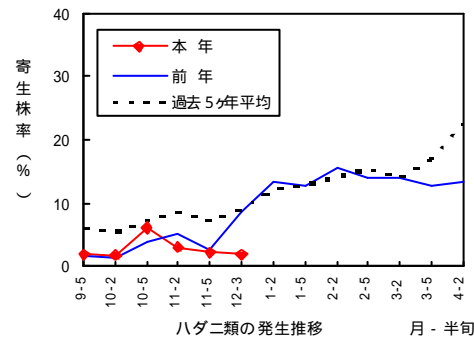
ア 本種は、はじめスポット的に発生し、地面に接し

た下位葉ほど寄生が多いので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。

イ 防除は摘葉後に行い、葉裏に薬剤が十分にかかるように防除する。

ウ 摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

エ カブリダニ類を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。



### 3 ナスすすかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

発病葉率 2.1% (平年 9.1%、前年 9.6%)

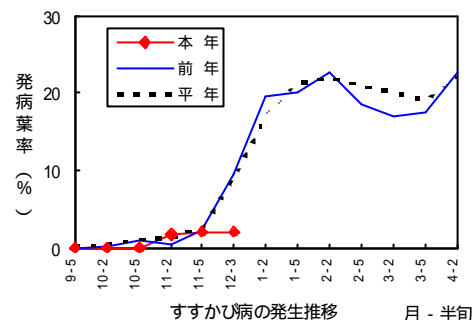
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 4 トマト葉かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

発病葉率 0.3% (平年 2.3%、前年 0.6%)

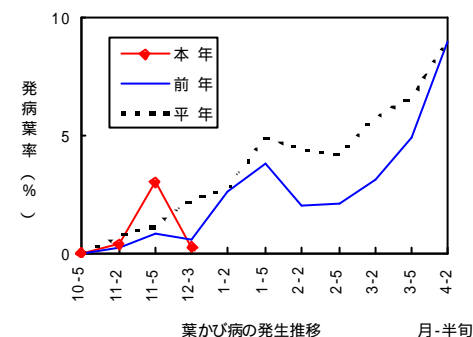
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 薬剤は葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。

ウ 肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。



### 5 ミナミキイロアザミウマ (野菜共通)

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

ナス寄生葉率 28.8% (平年 8.8%、前年 12.8%)

ナス被害果率 0.9% (平年 0.7%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている(±)。

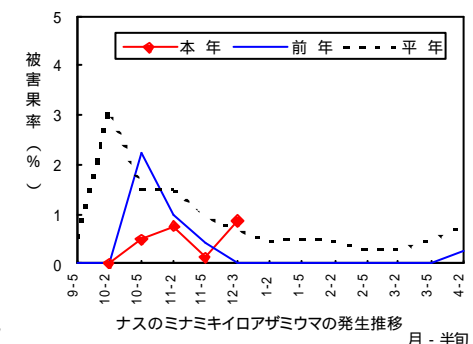
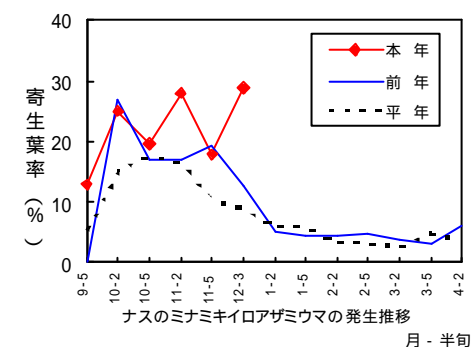
#### (3) 防除上の注意

ア 本種はキュウリの黄化えそ病(MYSV)の媒介虫である。このウイルスはアザミウマ類が低密度でも伝染し蔓延するので、早期発見に努め、防除を徹底する。

イ 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないように丁寧に散布する。

多発した場合は、約1週間後に再度薬剤散布を行う。防除は、生息密度の低い厳寒期に徹底する。

ウ ほ場内外の雑草を除去し、害虫の生息、増殖源を絶つ。



エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6 コナジラミ類（野菜共通）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3日半旬調査結果、発生量は平年並であった

(±)。

ナス寄生葉率 19.8% (平年 11.9%、前年 7.0%)

トマト寄生葉率 1.0% (平年 1.3%、前年 0.5%)

キュウリ寄生葉率 0.2% (前年 0.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている(±)。

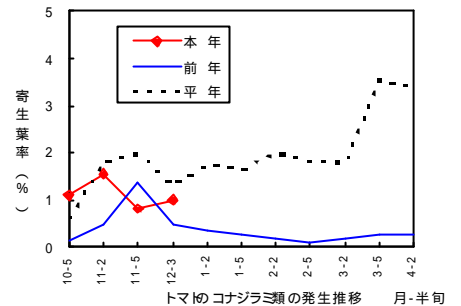
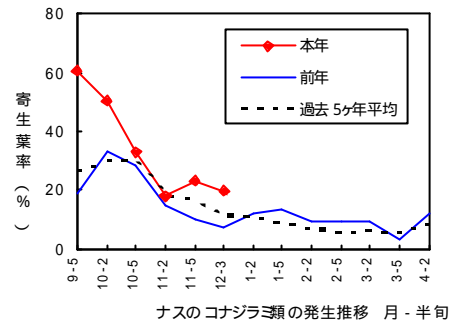
(3) 防除上の注意

ア タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)やキュウリ退緑黄化病(CCYV)の媒介虫であるので、早期発見に努め、防除を徹底する。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉を除去し、施設内の密度を下げるとともに、葉裏への寄生が多いので散布むらがないように丁寧に防除する。

ウ ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息、増殖源を絶つ。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【野菜：その他の病害虫】

| 作物名<br>病害虫名    | 発生量<br>(現況) | 発生量<br>(予想) |     | 防除上注意すべき事項等   |
|----------------|-------------|-------------|-----|---|
|                | 平年比         | 平年比         | 前年比 |   |
| 冬春イチゴ<br>灰色かび病 | 並           | 並           | 並   | ・罹病果は見つけ次第除去する。   |
| 冬春ナス<br>うどんこ病  | やや少         | 並           | やや少 | ・風通しや日当たりをよくし、草勢の維持管理を行う。<br>・罹病葉や罹病果は見つけ次第除去する                                 |
| 灰色かび病          | やや少         | 並           | 並   |   |
| 冬春トマト<br>灰色かび病 | 並           | 並           | 並   | ・開花後の萎れた花弁は、伝染源となるので取り除く。   |
| 冬春キュウリ<br>べと病  | やや少         | 並           | やや少 | ・風通しや日当たりをよくし、草勢の維持管理を行う。<br>・窒素肥料の多用は避ける。<br>・罹病果は見つけ次第除去する。<br>・発生初期の防除を徹底する。 |
| うどんこ病          | やや少         | 並           | やや少 |   |
| 灰色かび病          | 並           | 並           | 並   |   |
| 褐斑病            | やや少         | やや少         | やや少 |   |

| 作物名<br>病虫害名                     | 発生量<br>(現況)     | 発生量<br>(予想)     |                 | 防除上注意すべき事項等  |
|---------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|--|
|                                 | 平年比             | 平年比             | 前年比             |  |
| 冬キャベツ<br>菌核病<br>黒腐病<br>コナガ      | 並<br>やや少<br>並   | 並<br>やや少<br>並   | 並<br>並<br>並     | <ul style="list-style-type: none"> <li>罹病株は見つけ次第処分する。</li> <li>初期防除を徹底する。</li> <li>結球期前の防除を徹底する。</li> </ul>                          |
| 冬レタス<br>灰色かび病<br><br>菌核病<br>腐敗病 | 並<br><br>並<br>並 | 並<br><br>並<br>並 | 並<br><br>並<br>並 | <ul style="list-style-type: none"> <li>トンネル内が高温多湿にならないように換気を行う。</li> <li>罹病株は見つけ次第処分する。</li> <li>トンネル内が高温多湿にならないように換気を行う。</li> </ul> |

## 農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され、基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルをよく確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう対策を講ずるなど十分に注意を払って下さい。

### 1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数など、ラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

### 2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704204.html>  
電子メール [kfok0301@sp.jpjn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpjn.ne.jp)